

プロジェクト報告 Project Reports

ブラジル 『ブラジル洪水被災者支援』 物資配布

サポート: ジャパンプラットフォーム
2011年3月～5月

2011年1月11日～12日にかけて、ブラジル南東部リオデジャネイロ州の山間部の集中豪雨で約2,000人の死者がでた。家屋をなくした人は25,000人、軍や国内外NGOが支援に入ったが、道路は寸断され被災地は孤立状態であった。ICAは、被害のひどかった3地域において物資配布を実施した。



ノバフリブルゴ地域の被災した小学校で学用品を配布



ICAは、2月にリオ山間部において初動調査を実施し、ペトロポリス、テレソポリス、ノバフリブルゴで支援を受け取っていない子供たち(約1,500人)を対象に、学用品の配布を実施した。

この3地域が、今回の洪水土砂被害で最も多く死者数を出した地域でもあり、被害が深刻であった。公立校に通うにも学用品の持参が必要であり、被災後生活資金がなく、子供の教育を断念する被災者が多数いた。開校も目処がたたず、前回事業で配布対象にならなかった学校に加え、今後被災者が危険地域から退去するため、転入生を受け入れる周辺の学校への支援も必要となっていた。

2月に実施したニーズ調査の結果、食料配布は行き届いており、調理器具も少しずつ配布されているが、家財道具を失った被災者は調理に必要なガスコンロを持っていないことが判明したため、ブラジルで一般的なオープン付きコンロとガスタンクをセットにして配布することとなった。

被災者への水、食料、衣服、衛生用品の配給は十分であり、今後の国内外NGOが調理器具、小学校への学用品、建設資材、農具を配布する計画が立っていたが、小学生以下の子供への学用品や調理用ガスコンロの支援は計画にないため、ICAがカバーすることとなった。

学用品の配布は、ペトロポリス、テレソポリス、ノバフリブルゴで各地域2校ずつ、調理器具も同様ペトロポリス、テレソポリス、ノバフリブルゴで配布した。



テレゾポリスの被災した小学校



ハフリブルゴの被災した小学校



支援物資である学用品



ペトロポリスにおける学用品配布



テレゾポリスのガスコンロ配布



ハフリブルゴで崩壊した家屋



ペトロポリスのガスコンロ配布



ガスコンロを受けとり喜ぶ被災者家族